第４章　平成 12 年度山口大学構内の立会調査

第１節　吉田構内の立会調査

１　厩舎及び周辺施設改修工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　Ｍ－８

調査期間　平成12年４月24日

調査面積　約 3.6 ㎡

調査結果　厩舎及び周辺施設改修工事に伴う排水溝設置のため、掘削幅・深度約30㎝、長さ約12ｍの範囲で掘削を行った。調査の結果、掘削深度内はいずれも造成土の範囲でおさまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

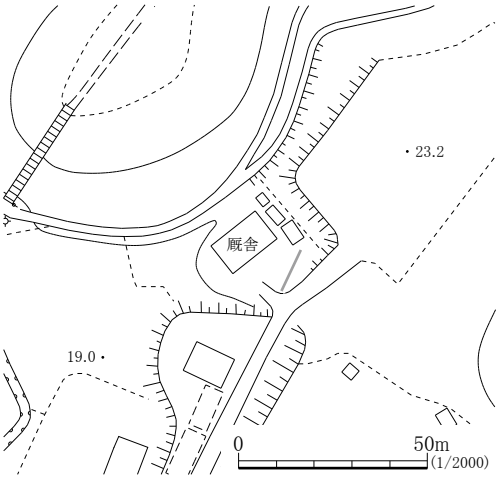

Fig.24　調査区位置図

２　架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　Ｏ－15、Ｐ－15・16、Ｑ－14・15・18・19、Ｒ－13・14、Ｒ・Ｓ－19、Ｓ－14

調査期間　平成12年５月８･22･23･25･26･30日、６月１・２・５・７・８･14･15日

調査面積　約268㎡

調査結果

層序と遺構

平成11年9月の台風18号の被害に伴う復旧工事に伴い、吉田構内の架空電線を取り外して埋設する工事が行われることになった。管路の掘削幅は約50㎝、掘削深度約30 ～60㎝で、ボイラー室から附属農場周辺（北部）と総合研究棟から家畜病院西側（南部）で掘削が行われた。調査の結果、調査区北部では造成土もしくは地山面を検出するにとどまった。

一方、調査区南部の道路部分は削平が著しく、造成土と地山を検出し、埋蔵文化財に支障はなかったが、家畜病院西側一帯では、現地表下50㎝前後で遺物包含層を検出し、土師器、須恵器片が少量出土した。

Fig.25 調査区位置図

遺物

1は須恵器坏蓋。径2.1㎝の扁平なボタン状のつまみが付く。2は須恵器高台付坏である。断面方形の低い高台が付く。

小結

検出した遺物包含層は、ほぼ上面検出にとどまったため、詳細は不明であるが、総合研究棟敷地[1]・解剖実習棟敷地[2]・農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期第２調査区[3]で検出した埋没谷の一部と考えられる。以上の状況から、調査区周辺では古代の遺構・遺物が残存していることが考えられるため、今後の掘削工事にあたっては、埋蔵文化財の保護に特に注意が必要である。

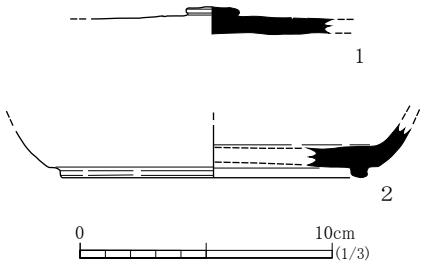

Fig.26 出土遺物実測図

［注］

1）本書第２章参照

2）山口大学埋蔵文化財資料館「平成７・10 ～ 14 年度山口大学構内遺跡調査の概要」（『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』、2004 年）

3）山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成 20 年度－』、2012 年）

3　九田川河川局部改修工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　Ｈ－11・12、Ｉ－10・11、Ｊ－９・10、Ｋ・Ｌ－９

調査期間　平成12年５月11、８月３・４・18・23・25、９月４・18、10月23、11月30、12月12・1月12、２月５、３月27日

調査面積　約616㎡

調査結果　平成12年度分の工事として、正門西側で長さ約38m、正門東側で約150mに渡って、現地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。また、構内道路の擁壁部分約26mでは、現地表下約80cmまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約１～２mまでが造成土で、以下で地山及び河川堆積土が検出された。また、調査区の一部ではこれまでの調査で地山の一部と考えられている黒褐色粘土も検出された。しかし明確な遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。ただし、調査区内は攪乱が著しい箇所もみられたため、本来は遺構・遺物が存在した可能性は否定できない。九田川の南側に位置する実験水田では、大学会館～就職支援施設で検出された谷の延長部分が存在すると考えられるため、今後の掘削工事にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意が必要である。

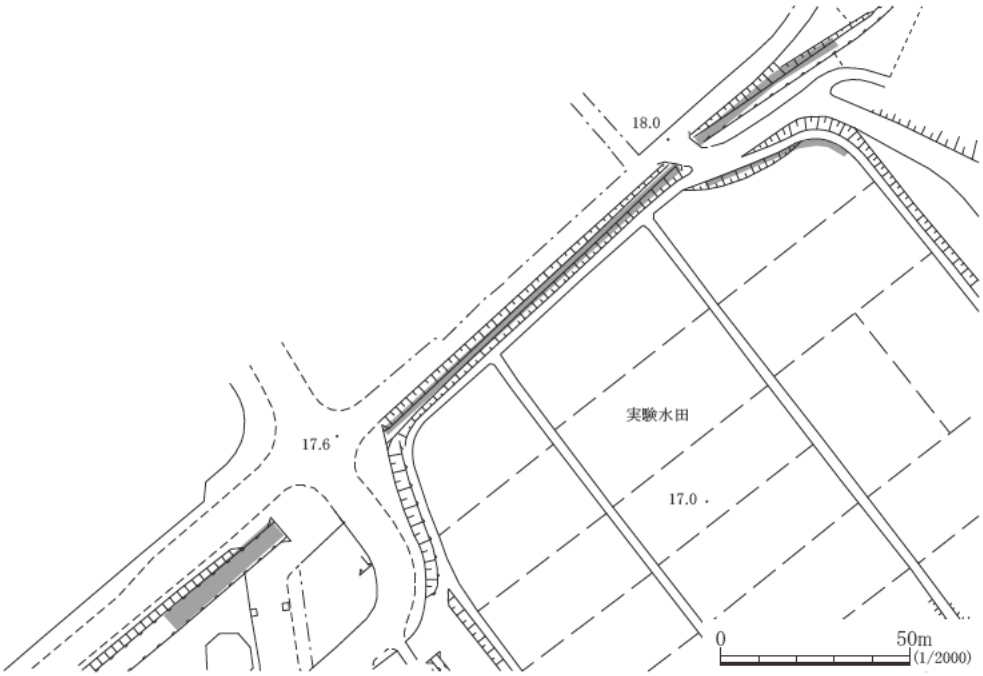

Fig.27　調査区位置図

4　山口合同ガスガバナー室新設及びガス管改修工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　O－19～22、P－18・19・22

調査期間　平成12年8月2・3・22・23・28・29日

調査面積　約313㎡

調査結果　吉田構内のガスを天然ガスに切り替えるため、(株) 山口合同ガスによりガバナー室の新設及びガス管改修が計画された。山口市教育委員会より工事主体である(株) 山口合同ガスに対して、埋蔵文化財資料館と連絡をとるよう指示があり、当館が立会調査を実施した。掘削工事はガバナー室新設箇所・フェンス・ガス管新設箇所で行われ、ガバナー室及びフェンスの掘削深度は最大で現地表下約100㎝までで、ガス管新設の掘削深度は現地表下約80㎝までであった。

調査の結果、ガバナー室新設箇所では統合移転前の耕土・床土、地山を確認したが、ガス管新設箇所の大半は造成土で一部で地山を確認するにとどまった。いずれの調査区でも顕著な遺構・遺物は検出されなかった。

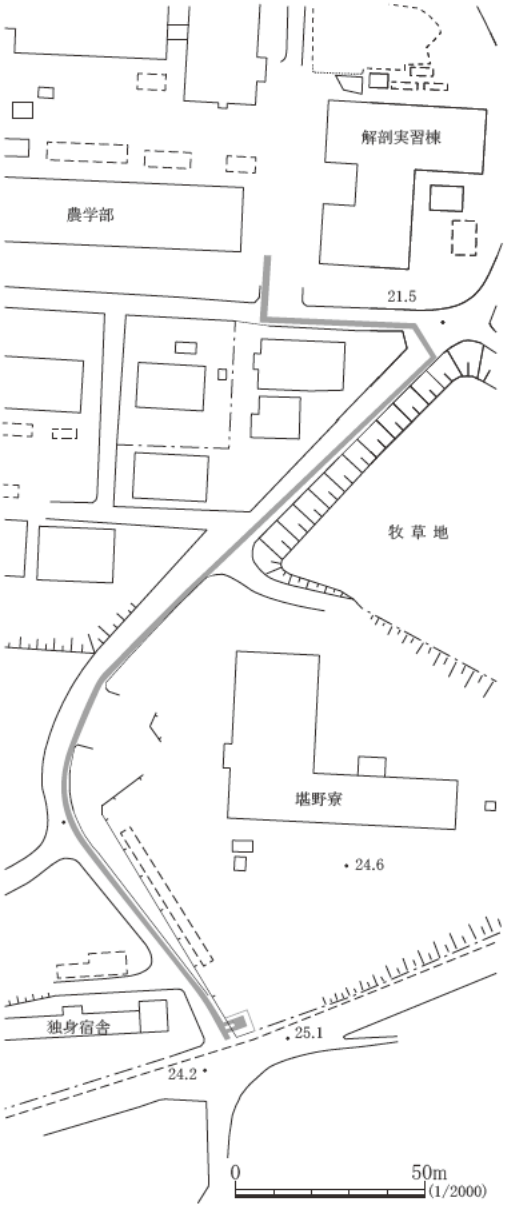

Fig.28　調査区位置図

5　バリカー新設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　N－22、V－17

調査期間　平成12年12月22日

調査面積　約0.4㎡

Fig.29　調査区位置図

調査結果　工事は東門西側及び国際交流会館北西側に車止めのバリカーを設置するため、基礎部分を25㎝×25㎝の範囲で現地表下約55㎝まで掘り下げるものである。いずれも造成土を検出するにとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

6　あずまや新設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　L－18

調査期間　平成13年３月２・５日

調査面積　約５㎡

Fig.30　調査区位置図

調査結果　共通教育講義棟南側の空閑地にあずまやの新設工事が計画された。計画地は周辺の状況から造成土が厚いことが推測されたため、掘削深度が現地表下約100㎝となる支柱部分（平面形90㎝×90㎝）Ａ～Ｆ地点の６箇所について、立会調査を実施した。

調査の結果、Ａ地点では、現地表下約76㎝までが表土・造成土、約76～100㎝がオリーブ灰色砂（２～３㎝の礫を含む）であった。Ｂ地点では、現地表下約66㎝までが表土・

造成土で、以下約66 ～112cmがオリーブ灰色砂（２～３cm大の礫を含む）であった。C地点では、現地表下約64cmまでが表土・造成土で、以下約64 ～102cmが青灰色シルトであった。D地点では、現地表下約66cmまでが表土・造成土で、以下約66 ～82cmが統合移転前水田耕土、約82 ～85cmが同水田床土、約85 ～112cmが緑灰色砂（２～３cm大の礫含む）であった。E地点では、現地表下100cm前後で緑灰色砂（２～３cm大の礫含む）を検出した。F地点では、現地表下約100cmまでが表土・造成土で、以下100 ～120cmが緑灰色砂（２～３cm大の礫を含む）であった。いずれの地点からも遺物は出土しなかった。

以上の結果、A・B地点で検出されたオリーブ灰色砂、D～F地点で検出された緑灰色砂は河川堆積土と推測される。また、C地点で検出された青灰色シルトは地山であろう。検出された河川は、 調査区の北西側に位置する共通教育２号館[1)]（現メディア基盤センター棟 ）で検出された縄文時代の河川との関連が考えられる。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内教養部複合棟新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅶ』、1988 年

7　共通教育センター空調設備新設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　Ｊ－16

調査期間　平成13年３月13日

調査面積　約1.4㎡

調査結果　共通教育センター空調設備新設工事に伴う配管設置に伴い、立会調査を行った。掘削規模は幅約40cm、長さ約3.4m、深さ55cmであった。調査の結果、掘削した範囲はいずれも造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

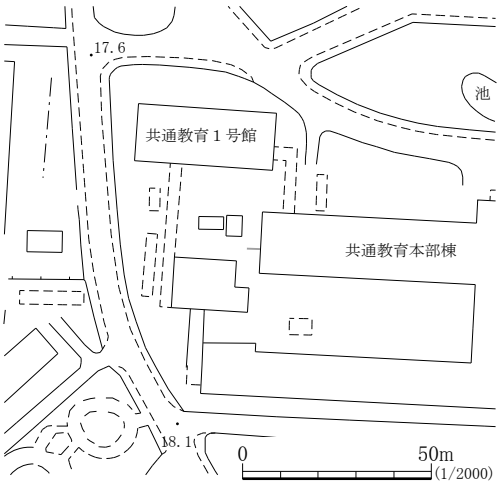

Fig.31　調査区位置図

8　基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内　Ｊ・Ｋ－21、Ｍ－10

調査期間　平成13年３月27・28日

調査面積　約２㎡

調査結果　吉田構内で基幹環境整備の一環として、 経済学部講義棟南側２箇所と吉田寮の南側１箇所に外灯が新設されることになり、Ａ～Ｃの３地点で立会調査を行った。掘削規模は、平面形80㎝×80㎝、深さ約100㎝である。調査の結果、Ａ地点では現地表下50㎝程度で地山、Ｂ地点では包含層を検出し、出土層位不明であるが、土師器片が出土した。Ｃ地点は造成土の範囲内であった。Ｂ地点の北側に位置する東アジア研究科・経済学研究科棟敷地[1]では、自然河川、自然流路、溝が検出されていることから、Ｂ地点の包含層はこれらの延長部分である可能性が高い。また、上記の自然河川、自然流路、溝からは縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器などが出土していることから、 今回調査区の南側にあたるハンドボール場には集落関連遺構が存在する可能性が考えられよう。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「経済学部東アジア研究科・経済学研究科棟新営工事に伴う予備発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成 21 年度－』、2013 年）

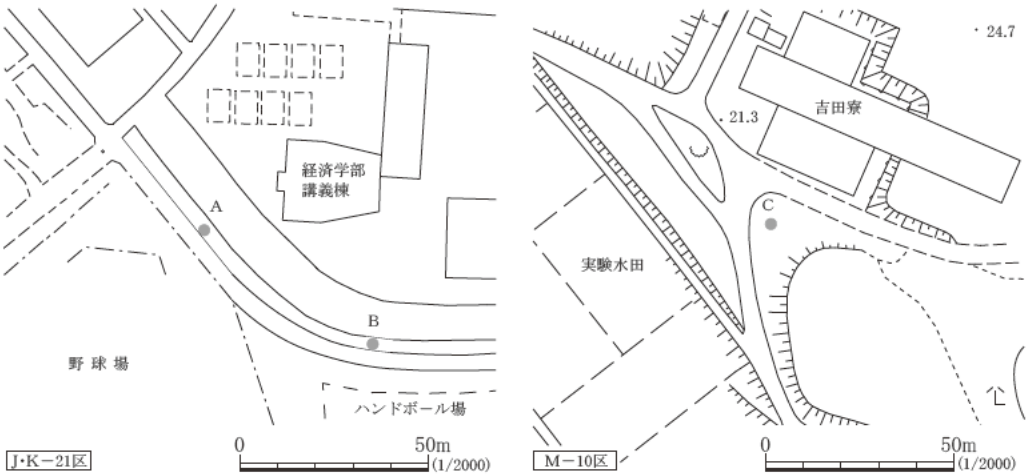

Fig.32　調査区位置図